

第2回
オンライン
セミナー

食べること、 生きること

令和3年度 岡山県委託事業“死生学とアドバンスケアプランニングを取り入れた
要介護高齢者の尊厳を最期まで守る多職種連携口腔栄養関連サービスの推進事業”公開セミナー

登録開始日

2022年3月22日(火) 12:00～

オンデマンド配信

参加**無料**
事前登録制

主催 岡山県、岡山大学病院、岡山大学歯学部

共催 岡山 SCD・MSA 友の会、岡山県難病医療連絡協議会

後援 岡山県医師会、岡山プライマリ・ケア学会、岡山県歯科医師会、岡山県看護協会、岡山県栄養士会、岡山県歯科衛生士会、岡山県言語聴覚士会、岡山県介護支援専門員協会、岡山市歯科医師会、日本老年歯科医学会岡山支部、日本在宅栄養管理学会

セミナー事務局 岡山大学病院歯科・口腔インプラント科部門 窪木 拓男（事業責任者）、縄稚 久美子、水口 真実、前田 あずさ（事業担当者）

TEL : 086-235-6684 E-mail : m-minakuchi@cc.okayama-u.ac.jp

※本セミナーの一部は、岡山県委託事業“死生学とアドバンスケアプランニングを取り入れた要介護高齢者の尊厳を最期まで守る多職種連携口腔栄養関連サービスの推進事業”により実施されています。

岡山県委託事業「死生学とアドバンスケアプランニングを取り入れた要介護高齢者の尊厳を最期まで守る多職種連携口腔栄養関連サービスの推進事業」第2回オンラインセミナー

食えること、生きること

日時：令和4年3月22日（火）12:00 公開

山下 徹 先生（岡山大学学術研究院 医歯薬学域 脳神経内科学分野 准教授）・・・・・・・ (2)

筋萎縮性側索硬化症(ALS)や脊髄小脳変性症、 多系統萎縮症について ～必要なサポートなど～

前田 啓子 先生（岡山 SCD・MSA 友の会：脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の患者家族会 会長）・・・・・・・ (3)

延命治療とは？

坂本 八千代 先生（岡山県栄養士会 会長）・・・・・・・ (4)

胃瘻は二番めのお口

山本 昌直 先生（岡山大学病院 スペシャルニーズ歯科センター 助教）・・・・・・・ (5)

岡山大学病院での摂食嚥下診療について

菊谷 武 先生（日本歯科大学 口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長）・・・・・・・ (6)

食えるを支える、食べられないを支える ～人生の最終段階における食の支援～

中村 幸伸 先生（つばさクリニック 理事長、岡山大学医学部 臨床教授）・・・・・・・ (7)

コロナ禍における在宅医療と食支援

日笠 晴香 先生（岡山大学学術研究院 ヘルスシステム統合科学学域 講師）・・・・・・・ (8)

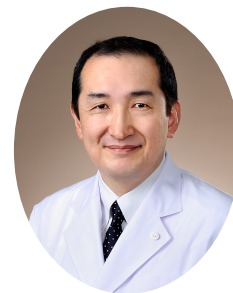
アドバンス・ケア・プランニング(ACP)とは？

～意思決定と人生に関する話し合いについて考える～

ご挨拶

岡山大学病院 歯科・口腔インプラント科部門

岡山大学学術研究院 医歯薬学域 インプラント再生補綴学分野



窪木 拓男

「死生学とアドバンスケアプランニングを取り入れた要介護高齢者の尊厳を最期まで守る多職種連携口腔栄養関連サービスの推進事業」令和3年度 第2回オンラインセミナーの開催にあたり、事業責任者として一言ご挨拶を申し上げます。

本事業は、岡山県から岡山大学病院が7年間にもわたり委託を受けて継続しているものです。要介護高齢者が、安心かつ安全に食事を摂取し、生活を維持するための口腔栄養関連サービスを岡山県内に普及するため、老人介護施設や在宅において多職種連携を行う上での知識や技術、態度を勉強する人材養成セミナーやワークショップを医療圏内各地で開催して参りました。

本事業ではワークショップを併催してきたことから、非常に優れた顔の見える多職種連携生涯教育の場を提供して参りましたので今年度は何とか対面だと考えておりましたが、コロナ禍が収束する様子が見えないため、今年度もオンラインセミナーとして開催することになりました。第2回オンラインセミナーでは、岡山SCD・MSA友の会（脊髄小脳変性症・多系統萎縮症の患者家族会）の前田会長に、患者様の家族としての立場から介護の実際についてお話を頂いた上で、様々な職種の専門家より、神経難病と言われている筋萎縮性側索硬化症(ALS)や脊髄小脳変性症、多系統萎縮症など、進行性の疾患における食支援についてお話を頂きたいと考えております。

まず、岡山県における神経難病の司令塔であられる岡山大学病院脳神経内科・山下准教授には、これらの疾患がどのようなもので、サポートにはどのような連携が必要かをお教えいただきます。次に、岡山県栄養士会坂本先生には患者様の命を維ぐための栄養摂取を胃瘻を含めて多面的に支える方法について、スペシャルニーズ歯科センター・山本先生には後方支援病院における摂食嚥下リハビリテーションの実際について、在宅現場の支援を担当されている中村先生、菊谷先生には在宅医療、在宅歯科医療の実際についてお話をいただきます。最後に、死生学をご専門とされておられる日笠先生にAdvance Care Planning(ACP)の側面からご助言を頂きます。

岡山県において、このような情報を総合的に得る機会は大変少なく、貴重な機会です。まさしく、食べることは生きることを実現するための多職種連携を県内で実現するための大きな一歩と考えております。

本セミナーの開催にあたり、岡山県保健福祉部健康推進課、岡山県歯科医師会関係者の方々をはじめ多くの方々のご尽力を賜ったこと、心から御礼申し上げます。本セミナーが、地域の高齢者医療や介護、福祉に多大なる貢献をできますことを祈念して、ご挨拶とさせていただきます。

筋萎縮性側索硬化症 (ALS) や 脊髄小脳変性症、多系統萎縮症について ～必要なサポートなど～



山下 徹 先生

岡山大学学術研究院 医歯薬学域 脳神経内科学分野 准教授

日本を含めた先進諸国は超高齢化社会を迎え、筋萎縮性側索硬化症 (ALS) や脊髄小脳変性症、多系統萎縮症などの患者数も増加傾向となっています。これら神経変性疾患では、筋力低下や小脳失調症状のために、進行期では嚥下機能が低下することが多く、食事をとることが困難になることがあり、多職種連携サポートが必要となる機会も多くあります。

今回の講演では、神経変性疾患の基本的な知識を確認しつつ、進行期に問題になることの多い嚥下障害などにどのように対応するか、胃ろうも含めてなるべく分かりやすく説明したいと思います。皆様の病気の理解を深める上で、この講演が少しでもお役に立てば幸いです。

略歴

2001 年 3 月 岡山大学医学部医学科 卒業
2001 年 4 月 岡山大学医学部附属病院神経内科
2002 年 5 月 国立岡山医療センター内科
2003 年 4 月 慶應義塾大学医学部生理学教室 共同研究員
2006 年 4 月 岡山大学医学部附属病院神経内科 医員
2007 年 3 月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科博士課程 卒業
2009 年 7 月 米国コロンビア大学病理細胞生物学部門 博士研究員
2012 年 9 月 岡山大学病院神経内科 助教
2013 年 9 月 岡山大学病院神経内科 講師
2015 年 4 月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 脳神経内科学 講師
2020 年 11 月 岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 脳神経内科学 准教授
現在に至る

受賞歴：

2010 年 2 月 岡山医学会賞
2010 年 4 月 第 34 回日本心臓財団草野賞
2016 年 9 月 第 6 回日本認知症予防学会浦上賞

所属学会：

世界脳循環代謝学会（理事 2019 年～） 日本神経学会（代議員）
日本脳循環代謝学会（幹事）
日本脳卒中学会（国際委員会副委員） 日本認知症予防学会（評議員）
日本老年医学会（代議員） 日本難病医療ネットワーク学会（評議員）
日本抗加齢医学会（2021 年 9 月～エビデンス評価委員会委員）
日本サプリメント学会（理事 2021 年 10 月～）
ICME 国際複合医工学会（理事 2021 年 10 月～） 日本内科学会 等

延命治療とは？

前田 啓子 先生

岡山 SCD・MSA 友の会 会長



夫は多系統萎縮症という神経難病で 23 年間の在宅療養の末、平成 31 年に 76 才で亡くなりました。障害者手帳 1 級で要介護認定 5 の全介助でした。病状の進行につれていわゆる延命治療と考えられている気管切開、胃ろう造設、呼吸器装着を行い医療依存度の高い生活でしたが、医療保険・介護保険・行政福祉サービスを目一杯利用して、多くの方々にお世話になりながら家族と一緒に家で普通に暮らしていました。神経難病でも重度障害者であっても特別なことではなく在宅療養ができる行政福祉サービスが充実した社会であってほしいです。

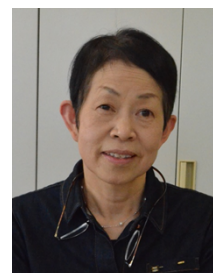
略歴

平成 11 年に設立された岡山 SCD・MSA 友の会（脊髄小脳変性症・多系統萎縮症患者の家族会）の会長を務めていた夫と共に、会の運営を支えてきた。夫の他界後は会の代表を引き継いでいる。

胃瘻は二番めのお口

坂本 八千代 先生

岡山県栄養士会 会長



食べるという行為は、その食べ物を見る視覚、香りを感じる嗅覚から始まります。得られた情報が脳に達し、その味や食感、美味しさまでもイメージすることが出来ます。刺激が一気に伝わり、唾液もわいてきます。次に、咀嚼ですが、胃瘻の場合にはミキサーやフードプロセッサーに代わってもらいますが、胃からスムーズに注入することが出来ます。みそ汁も具と一緒にミキサーにかけ、食物繊維もミネラルもビタミンも一緒に胃袋に入ります。食べることは生きることです。胃瘻はまさにこの食べることと同じで生きる手段と考えます。

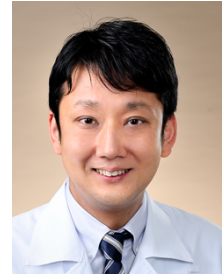
略歴

ノートルダム清心女子大学家政学部食品栄養学科卒業後、民間の病院勤務を経て
1998年 10月 岡山大学医学部附属病院栄養管理室に入職
2000年 4月 岡山大学医学部附属病院栄養管理室 室長
2015年定年退職後 2017年 11月まで再雇用で勤務
その間、岡山大学医学部保健学科 院内非常勤講師、ノートルダム清心女子大学人間生活学部
非常勤講師、特別講師を兼務
2011年 4月～2015年 3月山陽学園大学看護研修センター教育課程皮膚・排泄ケア 非常勤講
師、岡山県立大学認定看護師教育センター 非常勤講師を兼務
2017年 4月 くらしき作陽大学栄養学科 専任教授として入職
2018年 6月 公益社団法人岡山県栄養士会 代表理事（会長）に就任
現在に至る

岡山大学病院での摂食嚥下診療について

山本 昌直 先生

岡山大学病院 スペシャルニーズ歯科センター 助教



“食べる”ことは“生きる”ために必要なことの一つです。ただ日常生活の中で、あまりにも普通に食べることができているがゆえに、その必要性や重要性を意識しにくいのも事実ではないかと思えます。何かのきっかけで経口摂取ができにくくなったとき、“食べる”ことのありがたさを認識したという話は日頃の臨床でも耳にします。今回は、岡山大学病院での“食べる”ことに対する診療についてお話させていただきます。皆様が食について考えるときの一助になれば幸いです。

略歴

2008年3月	東京歯科大学歯学部歯学科	卒業	
2009年3月	東京歯科大学千葉病院	臨床研修歯科医 修了	
2013年3月	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科	細胞組織学 修了	
2013年4月	東京歯科大学千葉病院	摂食・嚥下リハビリテーション・地域歯科診療支援科 レジデント	
2015年4月	東京歯科大学千葉病院	摂食嚥下リハビリテーション研究室	レジデント
2016年4月	東京歯科大学千葉病院	摂食嚥下リハビリテーション研究室	診療助教
2017年4月	岡山大学病院	スペシャルニーズ歯科センター	医員
2020年4月	岡山大学病院	スペシャルニーズ歯科センター	助教

現在に至る

資格：

摂食嚥下リハビリテーション学会 認定士
日本老年歯科医学会 認定医
日本老年歯科医学会 摂食機能療法専門歯科医師
日本障害者歯科学会 認定医

食べるを支える、食べられないを支える ～人生の最終段階における食の支援～

菊谷 武 先生

日本歯科大学 教授

日本歯科大学 口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長

日本歯科大学大学院 生命歯学研究科 臨床口腔機能学 教授



「食べることは生きること」という言葉をよく耳にします。なぜならば、食べないことは死を意味することだからです。ただし、この「生きる」という言葉が、単に生物学的な生命を表しているだけではなく、その人の人生であったりや、生活であったりするなどの意味を含んでいる言葉であることは、言うまでもありません。だからこそ、どんな状況になっても、食べることはその人間の尊厳を守り、その人を取り巻くすべての人の喜びにつながるのです。

人生の最終段階における「食べること」の支援は、達成感のある看取りへの手助けになるといえます。私たちはその支援者となり、人生の総仕上げに立ち会うことになるのです。

略歴

1988 年	日本歯科大学歯学部卒業
2001 年 10 月	日本歯科大学附属病院 口腔介護・リハビリテーションセンター センター長
2005 年 4 月	日本歯科大学 助教授
2010 年 4 月	日本歯科大学 教授
2010 年 6 月	日本歯科大学大学院 生命歯学研究科臨床口腔機能学 教授
2012 年 1 月	東京医科大学 兼任教授
2012 年 10 月	日本歯科大学 口腔リハビリテーション多摩クリニック 院長

東京医科大学兼任教授 広島大学客員教授

岡山大学、北海道大学、日本大学松戸歯学部 非常勤講師

著書：

『誤嚥性肺炎を防ぐ安心ごはん』女子栄養大学出版
『歯科と栄養が会おうときー診療室からはじめるフレイル予防のための食事指導』医歯薬出版
『あなたの老いは舌から始まる』NHK出版
『ミールラウンド&カンファレンス』医歯薬出版
『チェサイドオーラルフレイルの診かた』医歯薬出版
『絵で見てわかる一認知症「食事の困った！」に答えます』女子栄養大学出版
『絵で見てわかる一入れ歯のお悩み解決』女子栄養大学出版
『食べる介護がまるごとわかる本』メディカ出版
『高齢者の口腔機能評価 NAVI』医歯薬出版
『基礎から学ぶ口腔ケア』学研
『図解 介護のための口腔ケア』講談社

コロナ禍における在宅医療と食支援

中村 幸伸 先生

つばさクリニック 理事長, 岡山大学医学部 臨床教授



このセミナーの講師にご縁をいただいて8年が経ちました。摂食・嚥下、栄養、食支援という言葉も在宅医療の現場でよく耳にするようになり、当院も管理栄養士、言語聴覚士を配置して食支援チームを立ち上げることができました。

しかし、このタイミングでのコロナ禍です。ソーシャルディスタンス、飛沫予防、マスク会食…食支援を取り巻く環境は在宅医療において大きな逆風になっています。

そのような中での在宅医療、食支援の現状と対策についてお話しさせていただきます。

略歴

2002年 鳥取大学医学部医学科 卒業
2002年 財団法人倉敷中央病院（教育研修部、循環器内科）
2007年 三育会新宿ヒロクリニック
2009年 つばさクリニック 開設
2011年 医療法人つばさ 理事長
2014年 つばさクリニック岡山 開設
現在に至る

資格等：

日本内科学会認定内科医、日本循環器学会専門医、日本在宅医療連合学会専門医・指導医
岡山大学医学部臨床教授
緩和ケアフォーラム in 岡山 世話人
倉敷NST研究会 世話人 他

アドバンス・ケア・プランニング(ACP)とは？ ～意思決定と人生に関する話し合いについて考える～

日笠 晴香 先生

岡山大学学術研究院 ヘルスシステム統合科学学域 講師



人生の最期までその人自身の価値観に沿った生き方ができるように、本人、家族や大切な人、多様な専門職者などが継続的に話し合いを重ねておくアドバンス・ケア・プランニングの取り組みが広がっていますが、その課題も指摘されています。そもそもなぜ ACP が重要だと考えられるようになったのかをふまえながら、医療やケアに関する意思決定や、人生に関する話し合いをどのように行う必要があるのかを、倫理的な観点から考えてみたいと思います。

略歴

2004 年 岡山大学文学部 卒業
2006 年 東北大学大学院文学研究科博士課程前期 2 年の課程 修了
2012 年 東北大学大学院文学研究科博士課程後期 3 年の課程 単位取得退学
2013 年 学位取得（東北大学） 博士（文学）
2014 年 日本学術振興会特別研究員
2018 年 岡山大学大学院ヘルスシステム統合科学研究科 講師
2021 年 岡山大学学術研究院ヘルスシステム統合科学学域 講師
現在に至る